

道連ニュース

2020年1月号 No.162

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

新年あいさつ



麻田 信二



新年、明けましておめでとうございます。迎えた2020(令和2)年が生協運動に集う皆様にとりまして、より良き年になりますよう、お祈り申し上げます。

皆様方には、常日頃から、北海道生活協同組合連合会の活動に対し、深いご理解とご協力をいただいております。お陰を持ちまして、昨年当会の運営は、滞りなく推進することができました。心から感謝申し上げます。

昨年の特異な出来事としては、2月に、「日本経済の行方」と題しての金子勝先生の講演会、9月に、「日本が売られる」と題しての堤未果先生の講演会をJAグループ北海道・北海道労働金庫と共催し、会場が大勢の参加者により満杯になる大成功を納めることができました。

また、JAグループ北海道や北海道労働金庫などと設立に向けて取り組んでいる「協同組合ネット北海道」(仮称)は、北海道ぎょれんやコープさっぽろなどの協同組合の皆様のご理解とご協力により検討が大きく前進してきました。

国内的には、平成から令和へと元号が代わり、華やかな祝賀ムードの中、地球温暖化の影響か、これまで経験したことのないような台風被害に見舞われました。そして、安倍首相が憲政史上最長の記録を伸ばす中、日本の国の舵取り役である政治家・霞が関公務員の劣化が進んでいるように感じ、この国の行く末が懸念されるどころです。

森友・加計学園問題では、公文書書き換えや安倍首相への忖度が大きな問題となりましたが、またもや、「桜を見る会」の問題では、税金を使った行事の文書資料が資料要求のあった日に直ちに廃棄されるなど、内閣府職員の対応を見ると、安倍首相の疑惑を必死になって隠そうとしているように思っています。

フランシスコ・ローマ教皇が来日し、長崎、広島の実現に向けてのメッセージや「誠実な人になりなさい」などの発言は、

安倍政権の姿勢とは真逆なもののように感じます。

一方、外に目を向けると、相変わらず、アメリカ・トランプ大統領と北朝鮮金委員長に振り回される国際情勢の中にありますが、イギリスのEU離脱の迷走、イラン核合意からのアメリカの離脱による影響、香港の長期間に及ぶ混乱状態など、世界情勢の不安定さは、少なからず、日本にも様々な影響をもたらしています。

このように今日の社会は不透明感が漂っていますが、ITCやAIの進展、経済格差の拡大、少子高齢化・人口減少社会の到来という中で、人々の心も変化していますので、当会は、会員相互の連携や調整という基本となる役割を担いながらも、社会の変化に対応した課題にも向き合っていかなければなりません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、札幌においては、マラソンと競歩のレースが急遽行われることになりましたが、この記念すべき年に、これまで準備を進めてきた「協同組合ネット北海道」(仮称)の発足式を3月2日に取り進める予定になりました。

会員生協の皆様におかれては、それぞれの設置目的に沿って、道民福祉の向上と平和な社会の実現に向けた活動をいただいておりますが、今後は、これまでの活動に加え、「協同組合ネット北海道」(仮称)をプラットフォームとして、ユネスコが世界無形文化遺産として認めた「協同組合の理念」を共有する組織との協働にも取り組み、日本生協連の創立宣言「平和と、より良き生活こそ生活協同組合の理想であり」「平和無くして、より良き生活は実現できない」を改めて心に留め、道民に暮らしの安心を届けていただきたいと思います。

今年が会員生協をはじめ、協同組合の理念を共有する組織の活動が一層前進し、これに携わる皆様方が、健康でご活躍できる1年であることを願い、新年の挨拶といたします。

コープさっぽろ社会福祉基金は創立30周年を記念して11月19日(火)室蘭工大 清末愛砂准教授を講師に「格差社会と貧困 憲法から福祉・社会保障を考える」と題した講演会が開かれ140名の市民が参加し、貧困問題の現状と背景について学びました

講演では、学生の学びの現場から学費・奨学金及びその返済問題などの現状、年収200万円以下で暮らす母子家庭の現状、介護における家族介護、老老介護の現状、全国2番目の高さである北海道の生活保護率とともに、生活保護に対する偏見から生活保護を必要とする状況にあるにもかかわらず、申請していない現状について、憲法第25条「生存権・国の社会的使命」に保障された権利として行使することを妨げる状況をなくしていくことが力説されました。参加者からは、「実

体験からのお話でわかりやすかった」「格差の本質が理解できた」との感想が寄せられました。

コープさっぽろ社会福祉基金は、組合員からの募金を源資に89年から一人親家庭の高校生に対し給付型奨学金を累計2830名に実施してきています。又、地域福祉助成として、社会福祉団体やボランティア団体への活動助成を行ってきています。



40運営者・16を超える支援事業者の輪に成長してきました！ こども食堂北海道ネットワーク

北海道生協連や多くの協同組合、事業者で応援してきた「こども食堂北海道ネットワーク」も足掛けで3年を過ぎようとしています。道内のこども食堂はこの間の調査で170ヶ所を数える所まで増え続けており、「居場所」「見守り」「食育」「地域」「繋がり」「学習」等々、様々な思いを持って各運営者さんが始めた活動は引き続き増勢を見せております。福祉問題を考える委員会や道連理事会にて「地域」「くらし」をめぐる諸活動の一つとして応援してきた「こども食堂北海道ネットワーク」は現在では行政の子ども分野の政策作り等、様々に期待される活動に成長してきました。他方応援する企業、事業者創造についてもこの「こども食堂北海道ネットワーク」の認知と理解が広がりつつあり、思いがけない企業、団体からのお申し入れも増え続けております。先般は「そらち南農協」様からのお米提供、「セブンイレブン」様のリニューアル時撤去品寄贈！北海道コカ・コーラボトリング(株)様からの飲料提供(2,600本)！(株)大和様からの粉末スープの提供！芦別・大橋サクランボ園様からのゼリー提供！ゾンタ

くらぶ様からの衛生用品提供等々、子ども達の笑顔と孤立を防ぐ活動への参画が広がっています。

第11回の学習交流会も盛会に開催されました！

年4回計画されている交流会ですが12月9日には福祉問題を考える委員会のメンバーでもある kacotam の高橋理事長が登壇し、子ども達の学習支援について高橋さんの思いと学習支援事業の現実について基調なお話を頂きました。大手と云われる学習塾事業者さんと行政窓口との関係は現在進められている「大学入試改革」の現れ方の一つであることを改めて勉強させて頂きました。

